

稲作管理情報 第8号

- ・ コシヒカリの収穫が近づいています。
- ・ 圃場ごとに籾黄化率を確認し、適期刈取りに努めましょう。
- ・ 刈取り後は、適切な乾燥調製を行い、胴割米の発生を防止しましょう!!

コシヒカリの刈取り時期

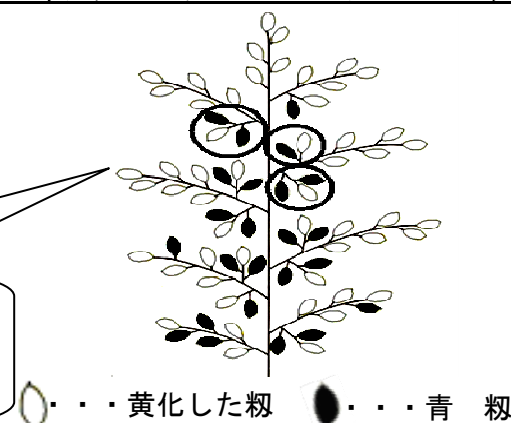
- ・ 今年の刈取りは、**籾黄化率 85%**から開始しましょう!!
- ・ 今年の刈取り適期予想

品種	田植え	出穂期	刈取り適期
コシヒカリ	5月中旬	8月3日頃	9月13日頃

※ほ場により成熟期に差があるので、右記の図を参考に稲穂の黄化状況や近隣の刈取適期標準票を確認して下さい。

黒枠内の籾（2次枝梗）が全て黄化した時期が籾黄化率 85~90%です。

・ 稲穂で見る刈取り適期



○ メルヘン米生産の総仕上げ

① 刈取前…刈取りの5日前までは間断かん水。落水後でも、フェーン時には入水しましょう!!

- 1) コンバイン、乾燥機、籾摺機の掃除を徹底しましょう。
- 2) クサネム等の雑草は収穫前に必ず抜き取りましょう!!
※クサネム種子は色彩選別機でも全て除去するのは困難で、クレームに繋がります!!



刈取り前に必ず抜こう!!

② 刈取時

- 1) コンバインと乾燥機的能力を考慮し、計画的に刈取りを行いましょう。
- 2) 完全に籾の露が落ちてから刈取りしましょう。

③ 乾 燥

- 1) ヤケ米（変質米・腐敗米等）発生防止のため、生籾は必ず4時間以内に乾燥機に入れ送風しましょう。
- 2) 初期の籾水分が高い場合（25%以上）は、胴割米の発生を防ぐため、乾燥温度を低くしましょう。
- 3) 籾水分が17%台まで乾燥した時点で中断し、半日以上貯留させた後に仕上げ乾燥を行いましょう。
※籾水分が17%台になったら、自動水分計に頼らず手動水分計でこまめに測定しましょう。
- 4) 適正な玄米水分（14.5 ~ 15.0%）に仕上げましょう!!（過乾燥米・胴割米の発生を防止!!）

④ 調 製

- 1) 籾摺り作業は乾燥終了後2~3日堆積し、籾水分を均一にしてから行いましょう。（肌ずれ米の発生防止!!）
- 2) 籾摺り前に籾水分を確認し、高い場合は通風循環等を行って適正な水分になってから籾摺りをしまししょう。
- 3) 作業開始時に試し摺りを行い、脱ぶ率が80~85%になるようにゴムロールの間隔、落下量を調整しまししょう。
- 4) 籾混入による等級格下げ防止のため、選別機の毎時適正流量を厳守し選別精度を高めまししょう。
必ず 1.9 mmの網目使用し、選別を徹底しまししょう!!

○ イノシシの被害にあった場合は・・・

- ①被害圃場・状況を市、共済組合、JAに報告しまししょう。
- ②被害場所及び通り抜け通路部分から1mは草刈機により刈り倒しとし、収穫しないようにしまししょう。
- ③被害圃場の侵入がない部分でも別管理し、異臭検査を受けまししょう。
※詳しいことは「JAいなば」にお問い合わせください。



イノシシ被害にあったほ場

収穫後の圃場管理等について

高品質米の生産は秋の土づくりから!!

土壌改良資材の施用

● ケイ酸資材の施用

- ケイ酸資材を施用すると、稲の茎葉や根が強くなり、
①病害虫に対する抵抗性が向上する、②倒伏しにくくなる、③フェーン時の水分蒸散を制御する、などの効果があり、品質低下を抑えます。
- 「食味の向上」や割粃を減らし斑点米を軽減させる効果もあります。

* 「元気」は、有機に鶏糞燃焼灰を加え、従来より水に溶けやすくなり、施用量が45kg以上に変更となりました。

* 「省力ケイカル(粒)」は、リン酸、アルカリを少なくした分、ケイ酸を増やしました。

資材名	主な成分 (%)		施用量 kg/10a
	ケイ酸	アルカリ	
元気	24	32	45以上
省力ケイカル(粒)	28	35	45以上
けいさん鉄	21	36	100以上
有機加里入りシリカロマン	20	36	80以上

堆肥の施用

- 堆肥の連年施用により土壌中の腐植含量が高まります。腐植が高まると、土の通気性や保水力、保肥力などが向上します。

堆肥の種類	施用量(10a当り)
醗酵鶏糞	100~150kg
牛糞堆肥	1~2t
粃殻堆肥	2t

緑肥の作付け

- 次年度大豆を作付する圃場には「ヘアリーベッチ」の作付けがおすすめです。

	ヘアリーベッチ
播種時期	9月下旬~10月上旬
播種量	3kg~4kg/10a
播種方法	動散によるバラ播き
すき込み時期	翌年5月



ヘアリーベッチ

○ ひこばえの対策について

- ひこばえは、イノシシの誘引や来年の漏生株の原因になりますので、結実する前に、秋起しを行いましょう。

○ 秋起こし

- 秋起こしは気温の高い10月中に行い、土壌改良資材や堆肥を散布した後に、10cm程度の深さで耕起します。春の耕起と合わせて、現状+3cm程度、15cm以上の作土深を確保しましょう。
- 秋起こし後は必ず排水溝を掘り、排水口へ連結させてください。

○ 排水対策

- 大麦や来年度に大豆を作付けする圃場は、稲刈り後速やかに、心土破碎を行い、額縁排水溝を設置してください。

○ 「平成28年産水稻栽培管理記録表」・「メルヘン米生産工程管理(GAP)チェックシート」

※夏期座談会のp31~32に記入用紙(メモ用)があります。作業日など、忘れないようにメモしておきましょう。